

直江地区自治協会だより

令和5年3月20日
直江地区自治協会
事務局:直江コミュニティセンター
TEL:72-5282 Fax:72-5286

2月18日(土) 第1回まちづくり懇談会開催

まちづくり懇談会は、直江地区の諸問題について地域の皆さんと語り合う会として毎年行っています。今年度は、「直江の今 これからの話をしましょう」をテーマに行い、39名の方にご参加いただきました。

【内容】

- 1 出雲市自治会支援アドバイザー事業の実施報告 (P6)
- 2 自治協会と協議した団体よりの報告
①中部教育振興会 ②消防後援会 ③直江体協 ④直江親子会
- 3 意見交換
- 4 アドバイザーからの助言



【アンケート(自治会参加者向け)】

- ①会費負担については現在検討を進めている。中部教育振興会では、各団体に対して市からの予算だけで運営できない所をカバーしているので、会費を調整しながら続けていきたい。
- ②体協行事への参加者が若い世代を中心に減る傾向にある。若い方から年配の方まで気軽楽しめる行事を継続して直江地区の親睦と交流を深めていきたい。そのための新しい企画や方法を考えている。
- ③消防団活動は地域の生命・財産を守る重要な役目を担っている。会費も消防団活動を支えるために活用している。今後はPR活動や未加入世帯への会費負担についての働き掛けを進めていきたい。
- ④現在自治会加入世帯で活動しているが、未加入世帯や外国とつながりのある子どもたちも多いので今後の参加を考えていきたい。

【意見交換(一部抜粋)】

- 自治会加入・未加入で会費負担の不公平感もあるが、会費の問題から自治会が壊れることは避けるべき。自治会は防災や地域の助け合い組織として必要であり、自治会を守っていくために申告制や会費免除など、自治会単位で思い切ったことを考えることも必要ではないか。
- 自治会のメリットは何なのか、加入して良かったという実感が無い。また、加入の意義や良さについての発信が弱い。自治会に入って良かったという体験を聞かせてほしい。
- 自治会の良さは人によって感じ方が違うので一概に言えないのでは。防災などの安心安全に関わることで、地域情報を得ること、人との交流などメリットはそれぞれだと思う。今後、自治会のやり方は各自自治会にあったやり方を話し合いながら変えていけばいいのではないか。
- 知り合いがゼロの中で自治会に入って、役員などして大変なことも多かったけど、自治会に加入したことによりいろいろな人と繋がって教えてもらっている。
- 近所の人と関係が近く家族に近い関係で育ってきたことは良かった。子どもも地域と一緒に育ててくれている感じがする。役割が回ってきた時は大変だが、つながりが増えてリフレッシュできている。
- 自治会未加入世帯に加入を勧めることはハードルが高い。また、効果的な方法も見いだせないのが現状。ただ、加入促進の活動や自治会の意義について発信し続ける必要がある。

今回、自治会に関わることを中心に熱心に話し合いをしていただきました。直江地区も新しい住宅が増える一方で少子高齢化も進み、地域の状況は随分変わりました。こうした現状を踏まえて、皆さんはこれからまちづくりをどう進めたいとお考えでしょうか。〇〇のまちにしたい、〇〇を変えたい、具体的に取り組むことがわからない、何をしても変わらない、誰かに任せておけばいい、など様々だと思います。しかし、まちづくりについては各団体の役員さんや担当の方が考えるのではなく、お一人お一人自分の事として考えていただくことが必要だと思います。来年度以降もまちづくり懇談会などの機会を通して、地域の皆さんの意見を地道に積み上げてまちづくりを進めていきたいと思っています。

「出雲市自治会支援アドバイザー事業」(令和3・4年度) 実施報告

この事業は、自治会活動の活性化や持続可能な自治会づくりのために、専門家から助言を受けながら自治会やまちづくりの課題解決に取り組む事業です。2年間の事業が終わりましたので昨年度からの取組を報告します。

住民参加・組織

- 「まちづくり懇談会」の開催(3回)
 - ①自治会活動について住民同士で話し合う
 - ②自治会での新しい取組例の紹介
 - ・準会員制
 - ・休会制度
 - ・会費負担制
- 住民に会費負担などを依頼している地区団体との意見交換会(2回)
 - ・中部教育振興会、消防後援会、体協、親子会
 - ・協議内容「住民の納得が得られる会費負担」
- 地域安全に関わる相互支援体制づくり
 - ・避難時要支援者プラン作成
- 出雲村田製作所協会の意見交換(2回)
 - ⇒災害情報の伝達や地域情報の発信方法確認
- 自治会未加入世帯へ地域活動協力依頼のチラシ配布

交流

- 住民研修の場づくり(やさしい日本語、地域の歴史)
- 「とんどさん」へのよびかけ

情報

- 新しい発信ツールとしてコミセン Facebook を運用する
- 「自治協会だより」「コミセンだより」での広報
- 地域情報誌「ハルモニア」の配付

成果→これからの課題

- まちづくりや自治会活動についての課題や今後の方向性を整理することができた
 - ⇒地域住民のまちづくりへの関心や意識を高める、より多くの人に参加してもらう
- 住民同士の話し合いや各団体との意見交換会により、課題を共有し課題についての検討が進みつつある
 - ⇒すぐできること・時間をかけて行うことに分けて、できることから具体的に進めていく
- 情報発信に努めることができた⇒読んでもらえる情報の工夫、媒体の工夫
 - 本事業はこれまで課題の検討に留まっていた段階から、まずは思いついたことから取り組んでみるきっかけになりました。そして、何かしらやることを通してしか次のアイデアが浮かばないことがわかりました。自治会が必要なのか、どのように持続させていくのかなど、今後の課題や取り組むことはたくさんあります。これからも皆さんとともに考えていきたいと思っています。



コミュニティセンター報

なおいえ

な かまを う えんする が おの まちづくり

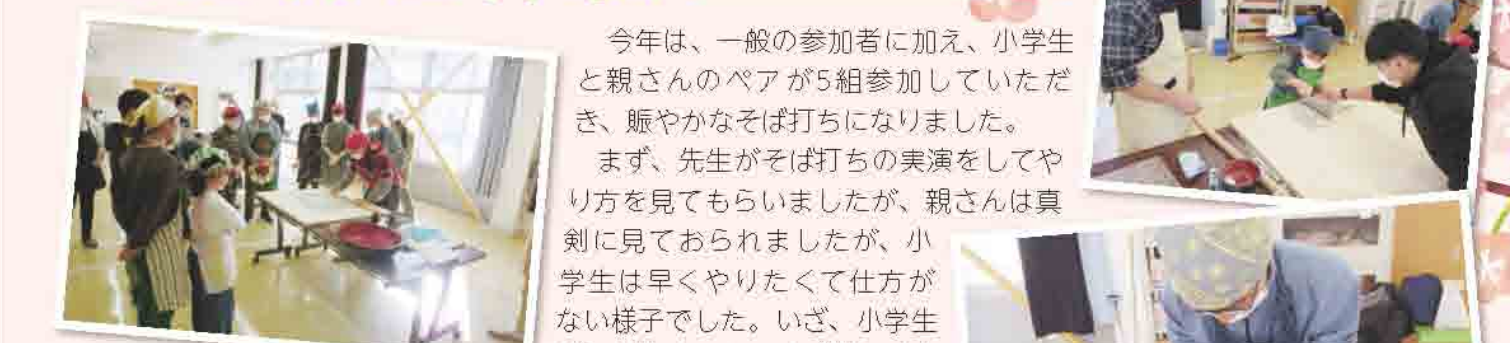
発行/直江コミュニティセンター TEL:72-5282 FAX:72-5286
E-mail:naoe-cc@local.city.izumo.shimane.jp

直江地区の世帯と人口
令和5年2月28日現在
世帯数.....1,561
人口.....3,809
(男性).....1,903
(女性).....1,906

直江コミセン 検索

2月5日(日) そば打ち体験

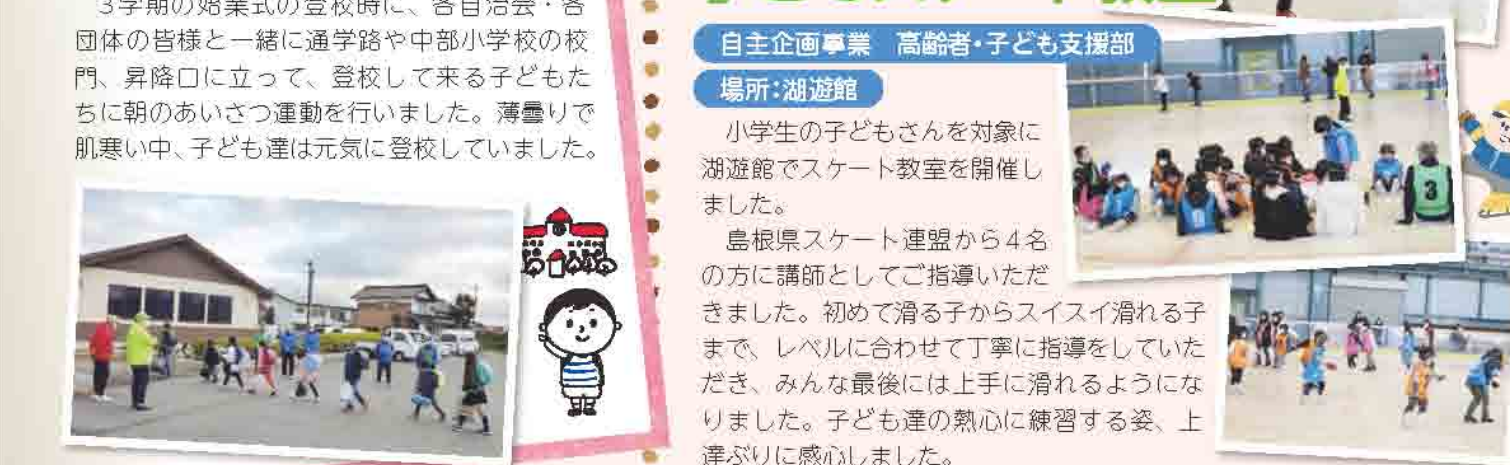
自主企画事業 地域活性部



今年、一般の参加者に加え、小学生と親さんのペアが5組参加していただき、賑やかなそば打ちになりました。まず、先生がそば打ちの実演をしてやり方を見てもらいましたが、親さんは真剣に見ておられました。小学生は早くやりにくくて仕方がない様子でした。いざ、小学生がやり始めると、そば粉と中力粉を混ぜたり水を入れてこねたり根気のいる工程にちょっと言葉少なになり、親さんが心配そうに見守っている姿が印象的でした。次に、こねたものを延ばす作業に、やっと小学生は興味を示しましたが、なかなかうまくならなかった様で手助けが必要でした。最後に、そば切りで小学生が一番やる気みせた工程でしたが、やっぱりうどんの太さに仕上がったようです。切った麺と麺つゆを持ち帰ってもらい、ご家庭でゆでて食べて、どんな会話がなされたのか？参加していただきました皆さん、ご協力ありがとうございました。

1月10日(火) 直江地区挨拶運動

中部小学校



3学期の始業式の登校時に、各自治会・各団体の皆様と一緒に通学路や中部小学校の校門、昇降口に立って、登校して来る子どもたちに朝のあいさつ運動を行いました。薄曇りで肌寒い中、子ども達は元気に登校していました。

2月12日(日) チャレンジ! 子どもスケート教室

自主企画事業 高齢者・子ども支援部



場所:湖遊館
小学生の子どもさんを対象に湖遊館でスケート教室を開催しました。島根県スケート連盟から4名の方に講師としてご指導いただきました。初めて滑る子からスイスイ滑れる子まで、レベルに合わせて丁寧に指導していただき、みんな最後には上手に滑れるようになりました。子ども達の熱心に練習する姿、上達ぶりに感心しました。



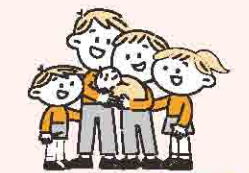
1月21日(土)

とんどさん

直江地区自治協会 まちづくり交流部

去年に引き続き、中筋小原自治会のとんどさんに参加させていただきました。

今年も多くのお正月飾りが集まり、自治会の方のお飾りと一緒に組み入れていただき、立派なとんどさんが出来上がりしました。祝詞の後に火入れを行い、大きな炎が立ち上がる中、今年の無病息災を祈りました。



2月16日(木)

男女共同参画 女性の健康講座

自主企画 総務部

「出雲市男女共同参画センター」より所長の森脇都多江さんにお越しいただき、「男女共同参画ミニ講座」として「男らしさ、女らしさ」などまだまだ性別意識のあるジェンダーについてお話しいただきました。

また、講座後は、日本コアカンディショニング協会マスタートレーナーの福田正恵さんに、下腹部ポッコリ、姿勢のゆがみなど、女性特有のお悩みを改善するための「骨盤底筋ケア」を教えてくださいました。普段意識しない筋肉などの動かし方を教えてください、質問も多い、楽しい会になりました。



講師：しまね国際センター 仙田武司さん

自主企画事業 地域活性部 共催 人権・同和教育推進協議会

やさしい日本語研修

少し前になりますが、コインランドリーで500円玉が何度も返ってきて困っている外国人に出会いました。お金の投入口に500円のマークがあり、「新500円硬貨は使用できません」と書いてありました。新しい500円を表示し「新しい500円はつかえません」と書いてあったら分かったかもしれません。

やさしい日本語とは、難しい言葉を言い換えるなど相手に配慮したわかりやすい日本語です。きっかけは外国人にわかりやすく伝えることでしたが、年少者や高齢者など誰にとってもわかりやすいよさがある言葉です。

研修会は昨年が続いて2回目ですが、今年の参加者は地域の方・外国人住民がほぼ半数ずつでした。当日は体験型研修が中心で、日本人と外国人がペアになりやさしい日本語で伝えあう体験をしました。「習うより慣れる」の言葉通り、話していく内にお互いのぎこちなさが薄れ、楽しく話すことができました。仙田さんは、やさしい日本語で話すポイントは、《はさみの法則》：①はっきり言う、②いごまで言う、③じかく言う》だと話されましたが、これは、日本語の会話でも必要なことです。言葉で伝えあう基本は、相手に伝えたい・相手のことを理解したいという思いであることを学んだ研修会でした。



直江地区人権・同和教育研修会

1月22日(日)

「お互いを思い合う心～みんなちがってみんないい～」

当日は、おおだふれあい会館元館長堀ささんを講師に、約30名の方にご参加いただきました。堀さんは、まず、「講演会では自分自身が研修に参加し感銘を受けた内容の一部を皆さんにお伝えしている」と述べられ、初めに2つのことを話されました。

①「人権」は、「空気」のようなもの。日常私たちは、その大切さに気が付かないまま日々の生活を送っています。いったんそれが奪われる(侵害される)と、とても苦しくなります。空気と同じようにその大切さを改めて実感することが大切です。

- ②3つの「た」のない人権研修を進めましょう
 - たてまえ：人権は日常生活の何気ない場面にあります 身近な生活の中で考えましょう
 - たにんごと：人権は自分には関わりがないこと、人ごとではありません 自分の事として考えましょう
 - たてじわ：人権と聞くと堅苦しくて難しいことだと思いがち 身近な易しいことから考えましょう

その後、終始私たちの生活にある人権について話して下さいました。

○人間だけが言葉を通してコミュニケーションしているが、人権に関わる言葉には明らかな差別用語と日常生活の中での不快語がある。例えば、手が足りない(忙しくて人手が不足していること)、足がない(交通手段がないこと)など、身体的な比喩表現・慣用語として使っている言葉の中に、聞いた人が傷つく言葉や不快に感ずる言葉がないだろうか？自分がその言葉を聞いた時にどう思うのか？という視点から自分が発する言葉を振り返ってほしい。

○バリアを取り除く考えから、障がいの有無や年齢などに関わりなく誰でも利用しやすいように最初からバリアのない設計をする考え方(ユニバーサルデザイン)が大事になっている。例えば、シャンプーとリンスが触ってわかるように目印があること、自動販売機の小銭入れが1枚ずつ入れる縦形から平らな受け皿になっていることなど。

※バリアフリー：障がいのある人が、社会生活をしていく上で障壁(バリア)となるものを除去すること

このほか、外国人住民の人権や障害者差別解消法、同和問題などについても身近な事例を紹介しながら話して下さいました。そして、最後に次の問を出し、自分はどう生きるのか空欄部に自分の考えを書いて下さいと締めくくられました。さて、皆さんは、_____に何と書かれるでしょうか？

○「差別される人は A が失われ、差別する人は B が失われる。だから_____」(A: 尊厳、B: 人間性)

直江地区では、令和5・6年度「出雲市同和教育研究指定事業」に取り組みます。その一環として、1月に「人権問題に関わるアンケート」をお願いしました。(回収率：64%)多くの皆様にご協力いただきありがとうございます。来年度からは、今回のような地域全体研修だけでなく、自治会や各団体など小さな単位での研修も進めたいと思っています。この機会に、皆さんと一緒に人権について考え、よりよいまちづくりに繋がりたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(文責：石原順)



お願い コミセンでは、行事やイベントの際に写真撮影をし、コミュニティセンター報やホームページに掲載しています。ご理解ご協力をお願いします。

TOPICS

ふるさと直江の 地形 地質 景観 Vol.10



本シリーズ(7)～(9)の3回は、仏経山の山体を構成する新生代新第三紀中新世の「流紋岩の溶岩」について述べてきました。今回は、シリーズ(6)の最後に記した鏡川南広域農道のすぐ南の仏経山北西麓の狭い範囲に分布すると予想された「大森層」について述べます。今回は、現地に中国電力の送電線鉄塔があり、そこへの進入路やのり面に地質を観察できる露頭があったため、それを入念に調べました。その結果、確かに南側の仏経山で確認した「流紋岩溶岩」や広域農道の北側で観察された「布志名層」の黄白色の砂岩(シリーズ(6)参照)と全く異なる、赤褐色の風化土が観察されました(下の2枚の写真)。



赤褐色風化土の露頭(鉄塔の東側下進入路)

この赤褐色風化土は粘土が主体で、とても「大森層」砂岩とは思えなかったため鉄塔北側の谷を調べたところ、以下の写真に示す、深青色のかなり硬い礫が多数見られました。この赤褐色風化土と深青色の硬い礫の起源は何でしょうか？それは、上記地質図で調査地点南西の出西氷室地区に分布し、緑に着色されている玄武岩質安山岩が、調査地点まで東に延びて分布していることによると考えました。安山岩は、流紋岩と比較して鉄分・マグネシウム分を多く含むため、未風化の新鮮岩では、青や緑がかった色となります。更に鉄分の多い玄武岩では黒に近い色となり、下右写真の深青色の礫は、まさに玄武岩に近い安山岩の色です。安山岩・玄武岩は砕石として利用されるので、見かけられた方も多いと思います。



鉄塔北側の谷に多く見られる玄武岩質安山岩

この礫は、露頭で見られた赤褐色風化土から抜け落ちたもので、礫の最も外側には赤褐色の風化土が付着しています。安山岩の新鮮礫と風化土の色の違いは、含まれる鉄イオンの酸化状態によるもので、風化土の方が酸化が進んでいます。おそらく、調査地では、赤褐色風化土の中に、新鮮な礫や岩の塊が残った状態にあると思われるのですが、今回の調査では確認できませんでした。

また、地質図に示されていた「大森層」砂岩も、今回は確認できませんでした。この地質図は、旧通商産業省地質調査所が発行した「今市」(縮尺5万分の1)の一部で、われわれ地質技術者もよく参照しますが、詳細な部分については、現地地質と異なっていることがあります。

次回が最終回の予定ですが、江戸時代後期に開削され、昭和前期に廃川となった、「新川」について述べたいと思います。 角田 彰 (東本町)

ご寄付のお礼

直江地区自治協会へご寄付をいただきました。(香典返し 金一封) (届出順)
・松山 博美様(正吉様/令和4年11月)中筋小原
・磯野 慎治様(英子様/令和5年1月)本町
・上野 正太様(聡様/令和5年1月)西本町
・松山 豊様(昭様/令和4年11月)相生町
・荒木 弘様(ユキ子様/令和5年1月)新市
()内は故人
ありがとうございました。
直江地区自治協会を通じて、社会福祉団体等へ配分し、有効に活用させていただきます。

お礼

中筋小原・北脇宏子さんより、エレクトーンを寄贈していただきました。ありがとうございました。



出雲市コミュニティセンター 団体育成補助金のご案内

- 対象** 営利を目的としない地域活動及び事業を行う直江地区の団体・グループ
- 目的** 各種団体の育成支援を行うことにより、地域の活性化につなげる
- 助成額** 全体で10万円 (助成団体数によりそれぞれの助成額が変わります。また地域として育成していくべき団体の支援とし、助成は概ね3年間を限度とします。)
- 申込期限** 4月10日(月)

お申し込み、お問い合わせは、直江コミュニティセンターまでお願いします。